



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 株式会社 アドバンス・メディア
 コード番号 3773 URL <http://www.advanced-media.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 鈴木 清幸

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営推進本部長 (氏名) 立松 克己

TEL 03-5958-1031

四半期報告書提出予定日 2021年2月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	2,900	14.2	187	51.1	174	57.3	143	56.2
2020年3月期第3四半期	3,382	23.9	383	60.0	410	6.7	328	5.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 365百万円 (56.6%) 2020年3月期第3四半期 233百万円 (14.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	7.86	
2020年3月期第3四半期	18.01	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	11,921	10,945	91.5
2020年3月期	11,686	10,471	88.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 10,911百万円 2020年3月期 10,315百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	3.1	600	13.7	580	28.9	500	27.7	27.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	18,332,724 株	2020年3月期	18,272,724 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	133 株	2020年3月期	133 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	18,308,155 株	2020年3月期3Q	18,270,416 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(追加情報)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当社グループは、2020年3月期までをBSR導入期、2023年3月期までをBSR展開期、2026年3月期までをBSR拡大期とし、BSR展開期の最終年度では売上高80億円営業利益22億円、BSR拡大期の最終年度では売上高200億円営業利益率30%の実現を目指しております。

そのような計画のもと、BSR展開期3カ年の初年度である当連結会計年度につきましては、主力のプロダクト販売やソリューションビジネスというフロービジネスの拡大を継続しつつ、AmiVoice® Cloud Platform (ACP) (AmiVoice®エンジン利用のサブスクリプションサービス) とAmiVoice® Cloud Service (ACS) (当社開発のアプリ/サービス利用のサブスクリプションサービス) の市場への導入を経て展開 (利用の継続数を増大させること) へ繋げてまいります。

当第3四半期においては、新型コロナウイルス感染症に起因する「新たなビジネス様式」に、AI音声認識技術を活用した新たな製品の開発を進めるとともに、働き方改革や少子高齢化に対する生産性向上や業務効率化にAI音声認識技術の提案を進めてまいりました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響から営業活動が制限されるとともに、一部の顧客でシステム投資に対する姿勢が慎重になっていることなどから、当初計画を下回る状況で推移いたしました。

その結果、売上高に関しましては、BSR1 (第一の成長エンジン) において、前年同期とほぼ同じ水準となり四半期ベースでは回復基調となったものの、医療事業部および連結子会社のAMIVOICE THAI CO., LTD. (タイ王国) が新型コロナウイルス感染症の影響から大幅に減収するとともに、前期連結グループであった株式会社グラモの売上計上が無くなったことなどにより、前年同期比で減収となりました。

損益に関しましては、営業利益につきましてBSR1 (第一の成長エンジン) のVoXT事業部が営業利益率を向上させるとともに、前期連結グループであった株式会社グラモの損失計上が無くなりましたが、売上高が減少するとともにアドバンスト・メディア単体で事業拡大に向けた販管費が増加したことなどから、前年同期比で大幅な減益となりました。経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、営業利益の減益が影響し減益となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間においては、売上高2,900百万円 (前年同期は売上高3,382百万円)、営業利益187百万円 (前年同期は営業利益383百万円)、経常利益174百万円 (前年同期は経常利益410百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益143百万円 (前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益328百万円) となりました。

音声事業の各分野別の状況は、以下のとおりであります。

BSR1の状況 (連結調整前)

	売上高	(前年同期比)	営業利益	(前年同期比)
BSR1 (第一の成長エンジン)	2,449百万円	8.4%減	366百万円	44.7%減

CTI事業部 (BSR1)

コンタクトセンター向けAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite3」を、新型コロナウイルスの感染拡大防止の施策等として在宅勤務でのコンタクトセンターへ活用する提案を進めました。

また、コンタクトセンター向けAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite」が、クラウド型テレフォニーサービスのパイオニアである株式会社リンクのクラウド型テレフォニーサービス「BIZTEL」と連携いたしました。

ストック比率：第2四半期末56.8%→第3四半期末57.1%

VoXT事業部 (BSR1)

AI音声認識AmiVoice®を活用した議事録作成支援システム「AmiVoice® MinutesWriter」とサブスクリプションサービス「ProVoXT」が、日本全国の自治体に累計325件導入され堅調に導入数を増加させました。

また、オンラインでの会議や商談、会見等が広がる中で、Zoom、Teamsなどの様々なオンラインツールで利用可能な文字起こし支援アプリケーション「AmiVoice® ScribeAssist」のユーザー数を増加させました。

ストック比率：第2四半期末59.8%→第3四半期末61.4%

医療事業部 (BSR1)

新型コロナウイルス感染症に起因する医療機関における新たな需要に対して、AI音声入力ソフト「AmiVoice® Ex7」の機能強化、及び、AI音声認識AmiVoice®を活用した新たな製品・サービスを企画し開発を進めました。そのような中で、AI音声認識を活用した医療向けボイスRPAサービスとして、対面診療・オンライン診療を支援するクラウドサービス「AmiVoice® OAM (Online Assist for Medical)」の販売を開始いたしました。

一方で、病院における働き方改革の浸透に伴い、AI音声認識AmiVoice®を活用し、効率的に入力業務や書類作成等を行う需要は引き続き強いものの、新型コロナウイルス感染症の影響から医療機関への営業活動が制限されたことにより大幅な減収減益となりました。

ストック比率：第2四半期末32.2%→第3四半期末31.9%

STF事業部（BSR1）

AI音声認識AmiVoice®と音声認識専用マイク端末が、神奈川県横須賀市の実証実験、自治体相談業務支援サービス「AI相談パートナー」で採用されました。

また、音声認識APIを提供する開発プラットフォーム「AmiVoice® Cloud Platform」をアップデートし、幅広い場面やビジネスで使用できる「汎用エンジン」、専門用語や業界用語に特化した「領域特化型エンジン」、さらには「英語」「中国語」など13種類の音声認識APIを追加いたしました。

ストック比率：第2四半期末58.1%→第3四半期末55.3%

BSR2の状況（連結調整前）

	売上高	（前年同期比）	営業利益	（前年同期比）
BSR2（第二の成長エンジン）	475百万円	36.8%減	△186百万円	—

海外事業部・ビジネス開発センター（BSR2）

海外事業部は、中国語版AI音声認識AmiVoice®エンジンのさらなる認識精度向上やコールセンターに続く新しい分野への事業開発を進めました。

ビジネス開発センターは、建設業界向け建築工程管理のプラットフォームサービス「AmiVoice® スーパーインスペクションプラットフォーム（SIP）」に、新たな機能やサービスの開発を進めました。あわせて、連結子会社の株式会社Rixioと連携し同サービスを活用した人材サービス「AISHサービス（AI Super-Humanizing（AIによるスーパーマン化））」の拡大を進めました。

連結子会社等（BSR2）

AMIVOICE THAI CO., LTD.（タイ王国）は、主要顧客に対する案件獲得を進めたものの、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞を受け減収となりました。

株式会社速記センターつくばは、自治体向け・裁判所向け・民間向け案件の受注獲得等を進めました。

株式会社Rixioは、ビジネス開発センターと連携し、収益性の高い案件に特化するなど収益力向上に向けた取り組みを進めました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は8,087百万円となり、前連結会計年度末に比べ45百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が850百万円増加したものの、受取手形及び売掛金が460百万円、金銭の信託が400百万円減少したことによるものであります。固定資産は3,833百万円となり、前連結会計年度末に比べ280百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が評価替えにより317百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、11,921百万円となり、前連結会計年度末に比べ235百万円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は873百万円となり、前連結会計年度末に比べ132百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が90百万円及び未払法人税等が88百万円減少したことによるものであります。固定負債は102百万円となり、前連結会計年度末に比べ105百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が142百万円減少したことによるものであります。

短期借入金と1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金については、株式会社グラモ株式の譲渡により、連結の範囲から除外となったため、残高がなくなりました。

この結果、負債合計は、976百万円となり、前連結会計年度末に比べ238百万円減少いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は10,945百万円となり、前連結会計年度末に比べ473百万円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益143百万円を計上したこと及びその他有価証券評価差額金を投資有価証券の評価替えにより218百万円計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は91.5%（前連結会計年度末は88.3%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績の進捗状況および最近の経営環境等をふまえ、2020年5月8日に公表いたしました2021年3月期の通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,236,726	7,087,293
金銭の信託	400,000	-
受取手形及び売掛金	1,166,848	706,825
電子記録債権	13,009	13,289
商品及び製品	86,288	79,726
仕掛品	25,426	17,208
原材料及び貯蔵品	52,908	38,176
未収入金	6,521	7,733
その他	149,266	138,248
貸倒引当金	△3,816	△923
流動資産合計	8,133,180	8,087,579
固定資産		
有形固定資産		
建物	223,538	248,352
減価償却累計額	△13,485	△21,021
建物（純額）	210,053	227,331
その他	277,688	282,618
減価償却累計額	△162,207	△178,696
減損損失累計額	△4,881	△4,871
その他（純額）	110,599	99,050
有形固定資産合計	320,652	326,381
無形固定資産		
ソフトウェア	375,831	305,064
ソフトウェア仮勘定	37,068	146,742
のれん	8,286	4,143
その他	115	115
無形固定資産合計	421,303	456,066
投資その他の資産		
投資有価証券	1,643,860	1,961,417
敷金及び保証金	218,011	210,621
長期前払費用	529,825	542,863
繰延税金資産	233,509	105,699
その他	185,957	230,864
投資その他の資産合計	2,811,164	3,051,464
固定資産合計	3,553,120	3,833,912
資産合計	11,686,301	11,921,492

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	94,603	69,432
短期借入金	90,000	-
1年内返済予定の長期借入金	8,316	-
未払金	106,283	125,273
未払法人税等	97,203	9,022
前受金	468,152	559,030
その他	142,150	111,229
流動負債合計	1,006,710	873,988
固定負債		
長期借入金	142,112	-
資産除去債務	65,560	77,352
債務保証損失引当金	-	25,000
固定負債合計	207,672	102,352
負債合計	1,214,382	976,340
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,871,755	6,906,795
資本剰余金	5,879,431	6,054,161
利益剰余金	△2,145,984	△1,981,028
自己株式	△226	△226
株主資本合計	10,604,976	10,979,702
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△289,553	△70,653
為替換算調整勘定	484	2,616
その他の包括利益累計額合計	△289,069	△68,037
新株予約権	16,261	33,485
非支配株主持分	139,750	-
純資産合計	10,471,918	10,945,151
負債純資産合計	11,686,301	11,921,492

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）
売上高	3,382,393	2,900,602
売上原価	1,082,012	857,040
売上総利益	2,300,380	2,043,562
販売費及び一般管理費	1,916,460	1,855,704
営業利益	383,920	187,857
営業外収益		
受取利息	30,460	6,760
受取配当金	14,432	18,644
助成金収入	-	12,405
投資事業組合運用益	10,234	20,455
雑収入	3,118	3,888
営業外収益合計	58,245	62,154
営業外費用		
支払利息	1,526	-
為替差損	26,509	70,165
持分法による投資損失	3,802	4,749
雑損失	142	106
営業外費用合計	31,979	75,021
経常利益	410,186	174,990
特別利益		
関係会社株式売却益	-	54,695
投資有価証券売却益	-	100
特別利益合計	-	54,795
特別損失		
固定資産除却損	6,670	2,548
関係会社清算損	417	-
債務保証損失引当金繰入額	-	25,000
特別損失合計	7,088	27,548
税金等調整前四半期純利益	403,097	202,238
法人税、住民税及び事業税	69,868	58,255
法人税等調整額	24,892	-
法人税等合計	94,760	58,255
四半期純利益	308,337	143,983
非支配株主に帰属する四半期純損失（△）	△20,660	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	328,997	143,983

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	308,337	143,983
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△82,251	218,900
為替換算調整勘定	6,254	3,492
持分法適用会社に対する持分相当額	714	△1,360
その他の包括利益合計	△75,282	221,032
四半期包括利益	233,054	365,015
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	253,714	365,015
非支配株主に係る四半期包括利益	△20,660	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年5月15日付で、株式会社グラモ株式を譲渡いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が139,750千円増加しております。

また、2020年6月25日開催の取締役会決議により、2020年7月22日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬制度としての新株式を発行しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が35,040千円、資本剰余金が34,980千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が6,906,795千円、資本剰余金が6,054,161千円となりました。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

また、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を用いた計算をしております。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

従来、当社及び連結子会社の税金費用につきましては、原則的な方法により計算しておりましたが、当社及び連結子会社の四半期決算業務の一層の効率化を図るため、第1四半期連結会計期間より連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定に重要な影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません